

ビブリオバトル

中学生・高校生による ビブリオバトル (知的書評合戦) を実施して

全国で盛り上がりつつあるビブリオバトルを今年も開催いたしました。今年で、5回目を迎えます。

ビブリオバトルは「人を通して本を知る、本を通して人を知る」をキャッチコピーにしており、「みんなが「図書館」でつながる日」がテーマの「図書館と県民のつどい」にぴったりの催しです。

1. ビブリオバトルとは

「ビブリオバトル」とは、バトラーと呼ばれる発表者がおすすめの一冊を持ち寄り、5分間で本の紹介をします。その後、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めた本『チャンプ本』を決定するどこでも手軽に楽しめる書評ゲームです。

「ビブリオバトル」は、2007年に谷口忠大（現立命館大学情報理工学部教授）によって始められ、昨年で10周年を迎えました。各地の図書館などが主催して行われることが多かったのですが、2016年度以降、中学や高校の教科書で取り上げられ、教育現場でも注目されるようになりました。中・高等学校の全国大会が開催されるだけでなく、一部の企業では、社員間のコミュニケーションツールとしても取り入れられています。

2. ビブリオバトルの様子

バトラーは、県内の中学生・高校生の5名です。中学生バトラーは11月14日（水）に

開催された予選会で、出場者22名の中から選ばれた3名です。高校生バトラーは、「彩の国高校生ビブリオバトル2018」出場者49名から決勝に進出した2名です。

当日は公式ルールに則り、発表5分、質疑応答2分でビブリオバトルを行いました。

バトラーと紹介された本は、下記のとおりです。（発表順）

小林 賢汰さん（さいたま市立大宮東中学校）
『厭な小説』
京極 夏彦／著（祥伝社）

足羽 美海さん（さいたま市立浦和高等学校）
『百年法』
山田 宗樹／著（角川書店）

中澤 優輝さん（さいたま市立与野東中学校）
『成りあがり How to be BIG』
矢沢 永吉／著（角川書店）

石川 航太さん（浦和実業学園高等学校）
『うそつき、うそつき』
清水 杜氏彦／著（早川書房）

樽本 咲月さん（さいたま市立日進中学校）
『蜜蜂と遠雷』
恩田 陸／著（幻冬舎）

バトラーは緊張しながらも工夫を凝らし、自分の言葉で本の魅力を熱く語りました。また、観客からも積極的に質問をいただき、会場は大いに盛り上がりました。

発表後にバトラーを含む参加者全員による投票の結果、チャンプ本には、樽本 咲月さんが紹介した『蜜蜂と遠雷』が選ばれました。『蜜蜂と遠雷』は、直木賞と本屋大賞のW受賞をした作品で、樽本さんは「この本は音楽」とこの本の魅力を伝えました。表彰後のあいさつで樽本さんは「チャンプ本に選ばれて嬉

しい」と笑顔を見せました。閉会后、バトラーは、応援に来た家族や友人、引率の先生方と記念撮影をし、発表時とは一転、リラックスした表情を見せていました。

観客からは「生徒さんの書評がとても上手でおどろきました。たくさんの中高生に参加してほしいと思いました。」「バトラーの皆さんの情熱が伝わってきておもしろかった。知らない本もあり、ぜひ読みたいと思いました。」といった感想をいただきました。

普段、自分では手に取らない本に出会えるのもビブリオバトルの楽しみの一つ。ぜひ、読む本を選ぶ際の参考にしてください。

最後に、ご来場いただきました皆さま、また、当日の準備・運営等にご協力をいただきました関係の皆さまに、心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

(記録：吉川市立図書館 原田 瑞希)

